

令和4年度の事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日

特定非営利活動法人 静岡団塊創業塾

コロナ禍のため「シニアライフ支援センター・くれば」は令和2年3月以降閉館を余儀なくされた。三年以上を経て、ウィズコロナの時代となり、リアルな居場所活動を徐々に再開した。ビデオ会議システムZOOMを使った「オンライン居場所」は継続し、ハイブリッド型の居場所を構築しつつある。

令和4年度の特記事項は、静岡市より受託した二年目の「ITリテラシー能力向上支援業務」を完遂できたことと、静岡県の行った「オンライン通いの場交流会」の進行役を2年連続で担当できたことである。社会的課題としてDXが挙げられる中、シニアのデジタルデバインド対策に関わる事ができた。

屋外活動「くればウォーキング」も継続開催した。コロナ禍の制約のなか、「地域デビュー支援事業」は、沼津市で開催できた。

1. 特記事項

(1) DX支援事業

①静岡市事業（受注金額：2557千円）【デジタル化推進課主催】

下記区分で『ミーティングアプリZOOMの体験講座』を行った。

テーマ①：市内全域の生涯学習施設・S型デイサービスにおける情報通信端末を利用した講座・相談会の実施

テーマ②：市内中山間地の生涯学習施設での情報通信端末を利用した講座・相談会の実施

テーマ③：テーマ①②の講座における受講者のアフターフォローの実施

※各分類毎の実施回数と述べ参加者数は、一般対象：12回、67人、S型デイサービス：14回、114人、中山間地：7回、84人、相談会：2回、5人、合計35回、270人だった。

事前に会員有志で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、打合せしたほか、メンバーには現地体験会にZOOMで参加して自身の体験談を語ってもらった。メイン講師は「しずおかパソコンサポート」を運営する会員の北楯、勝田両名をお願いした。

②静岡県事業（受取金額：374千円）【健康局健康増進課主催】

ネット活用を促す「新たな生活様式に対応した健康づくり事業」に協力した。『オンライン「通いの場」交流会（ZOOM）』を前年度は全県で1回実施したが、二年目の令和4年度は東部、中部、西部で各1回、合計3回行った。

団創会員5名（原田、大原、杉山吉、鈴木秀、加藤）がファシリテーターを担当し、県内各地で居場所運営に関係する方、行政担当者が参加し交流できた。

③ふじのくにデジタルサポーター養成講座受講

静岡県の主催する講座に会員20名が参加。必要な心構え、スマホの基礎、LINEの使い方、等楽しく学びました。今後「デジタルデバイド」の解消をめざして、受講者が”デジタルサポーター”となって活躍する機会を創出したい。

(2) 「くれば」ウォーキング活動

コロナ禍で一時中断したが、ウォーキング活動を継続中。参加をきっかけに入会される方もおられ、屋外交流の場として価値がある。猛暑の時期を避け、県内各地に足跡を残しつつある。

2. シニアライフ支援センター「くれば」運営

(1) ミニセミナー・サロン事業

リアル居場所プログラムとしては火曜日に「IT村」と「パソコン・スマホ個人相談」、水曜日には「でん伝体操（ハイブリッド）」と「健康麻雀」、木曜日には不定期であるが、「テクノロジーカフェ」や「谷さんのしあわせ学」を適宜開催した。

「オンライン居場所（ZOOM寺子屋）」プログラムとしては、毎週金曜日の19時半から「朗読会（語り上手聞き上手）」「川柳会」「長生きを喜ぶために」「ワンポイントITアドバイス」等、定期的に開催した。

(2) 歌声喫茶

「新さんの歌声喫茶」はオンラインまたは「くれば」サテライトで継続開催した。

(3) でん伝体操活動

毎週水曜日の11時～12時に継続開催、5年が経過した。ハイブリッド方式で継続中。

(4) 自治会研究班活動

コロナ感染状況が落ち着いたため、令和5年2月に活動を再会した。今後二ヶ月に1回集まり情報交換する予定。

(5) ライフシフトらば

有志の参加を募り第三日曜日の14時からZOOM開催。定年前の方にどんなメッセージを発信していくべきか検討中。

(6) ものづくり教室

ものづくりグループの活動として適宜開催。小学校児童クラブ等で実績を残した。

※寸劇事業、NPO事業企画会議、ランチ会、レンタル事業、は開催無し

3. 地域デビュー支援事業

令和4年度の本事業の実施結果を下表に示す。

(1) セミナー形式で実施分

※会員数名が「事例紹介」としてオンラインで登壇。講師は原田が担当。

場所	日程	イベント名	結果
沼津市	6月： 昼1回	セカンドライフセ ミナー	参加者15名。「ワールドカフェ」イベント実施。 現地2名、オンラインアシスト3名で対応、DSプ エルトさん協力
〃	12月： 昼1回	セカンドライフセ ミナー	参加者10人。「壮年の主張」イベントを実施。DS プエルトさん協力

(2) 講演形式で実施分

無し

4. シニア劇団「くれば座」活動

活動休止中、外部公演は無し。

5. 外部機関との関係構築、ピアール活動

特に無し。

6. 情報発信活動

(1) メールマガジン発信

毎月25日に継続発行し、現在97号となった。ZOOMイベントの実績や、各種行事等の告知をしている。我々の活動に関心のある方々や退会者への情報伝達手段となっている。

(2) ブログ発信

継続しているオンライン居場所活動を中心に10件/月程度アップしている。ホームページにリンクするので一般の方の目に触れる可能性も高い。

(3) 「くれば」予定表の配架

リアルとオンライン居場所を併記した予定表のフォーマットで配架中。

7. 会員数の推移

活動が制約される中、一年間で12名の方が入会されたが7名の方が退会され現在92名となった。「くれば」での活動を徐々に増やし、会員増に結びつけたい。

静岡団塊創業塾が従来から取り組んでいる4仕掛け（会って、繋がって、磨いて、輝く）については、下記のような実績を残した。

(1) 人生100年サミット

令和5年1月に第5回を実施した。DX関係事業を推進中のため、テーマは「シニアよ、新デジタル時代を共に生きよう！」とし、基調講演講師はデジタル推進委員アンバサダーの牧壮氏（デジタル大臣賞受賞）にお願いし、ハイブリッド方式で実施した。会場、オンラインそれぞれ約40名、計約80名が参加し、盛況のうちに終了した。

(2) 定期交流会

くれば閉館のため、リアルな交流会は実施できなかった。その代わりにZOOMで行った、「オンライン居場所」活動がその役割を果たしたと考えている。隔週火曜日に行っている「IT村」ではスマホやパソコンに関するもの以外のおしゃべりも盛んで、交流会の側面も生まれてきた。

(3) 磨きあい塾

今年は実施せず。

(4) 熟年セミナー

3-(1)のような「地域デビュー支援事業」を実施。受託数を増やすことが課題である。

上記事業を行うために、第一土曜日午後に定例理事会を12回行った。

以上

1. 居場所運営事業写真 (リアル+オンライン)



「くれば I T村」



再開した「くれば自治会研究会」

2. DX支援、地域デビュー支援事業写真



静岡市「情報リテラシー能力向上支援業務」



沼津市「セカンドライフセミナー」

3. その他事業の写真



「くれば」ウォーキング



人生100年サミット「シニアよ、新デジタル時代を共に生きよう」